

臨床薬理学

責任者・コーディネーター	情報伝達医学分野 平 英一 教授		
担当講座・学科(分野)	情報伝達医学分野、薬学部臨床薬剤学講座、薬学部薬物代謝動態学講座		
担当教員	平 英一 教授、工藤 賢三 教授、小澤 正吾 教授、近藤 ゆき子 講師、古濱 和久 非常勤講師		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12.0 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

薬物治療は現代医療の中で中心的な役割を占めている。治療に有効な薬物を開発し、患者により安全で有効な治療薬を選択するための学問が臨床薬理学である。臨床薬理学は、臨床薬物動態の検討、薬物の開発と臨床治験、そして個人に適した有効治療の確立などがあり、臨床薬物治療学に科学的さらには倫理的側面からもアプローチする学問である。

・教育成果（アウトカム）

医師として薬物治療、薬物開発、臨床治験に参加する際の基本的知識を臨床薬理学の講義を聞くことで、習得できるようになる。また、薬物動態の個人差を理解し、各個人向け治療を実践できる知識を習得できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 6)

・到達目標（SBO）

- 1 薬物治療の際の科学的根拠と、倫理、法律を説明できる。
- 2 薬物の処方について説明できる。
- 3 薬物の毒性について説明できる。
- 4 薬物の開発について説明できる。
- 5 薬物に対する反応の個人差について説明できる。
- 6 臨床的な薬物動態について説明できる。
- 7 薬物間の相互作用について説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
6/20	火	1	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬物動態の臨床薬理
6/20	火	2	薬学部薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬理遺伝学・遺伝子多型と薬物代謝
6/26	月	2	情報伝達医学分野	平 英一 教授	処方
6/27	火	1	薬学部薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	遺伝薬理学・個人差
6/27	火	2	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	薬物相互作用
7/3	月	2	情報伝達医学分野	古濱 和久 非常勤講師	医薬品毒性学と薬害
7/4	火	1	薬学部臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	臨床治験
7/4	火	2	情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師	発達・老年薬理

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	NEW 薬理学 改訂 6 版	田中千賀子、加藤隆一 編	南江堂	2011
参	シンプル薬理学 改訂 5 版	野村隆英、石川直久 編	南江堂	2014
参	Goodman & Gilman' s the pharmacological basis of therapeutics 12th ed.	Laurence L. Brunton	McGraw-Hill	2011

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	カッツング薬理学 原著 10 版	Bertram G.Katzung 著、荒木 勉ほか訳	丸善出版	2009
参	カラー図解 これならわかる 薬理学 第 2 版	Heinz Luellmann, Klaus Mohr, Lutz Hein 著、佐藤俊明訳	メディカルサイエ ンスインターナシ ヨナル	2012
参	集中講義薬理学：カラーイラ ストで学ぶ 第 2 版	渡邊康裕 編	メジカルビュー社	2015

・ 成績評価方法

筆記試験で 60 点以上の場合に合格。

・ 特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			